# 第千回の点呼 ── 座る席は近くなり、「先客なし」が見落とした一編は名指す前に座っていた

— 論文944 から 999 の座った文 60 本のうち 54 本は 100 番以内の編の射程注記に座り、「先客なし」71 本の外れは 1 本だった — 分離子は、先客が座ったことを名指しの語で書いたか、射程注記を引くだけで書いたか — [論文1000]

山岸 勇輝 (Yuuki YAMAGISHI)
Yamagishi Complexity Torus Lab, Japan｜山岸勇輝ラボ
2026年9月

*— From thinking to syncing. —*

## 要旨

論文900 は、名指しの語（座る・隣に置く・席）を既刊の射程注記を引く文にだけ使い、その文に「射程注記」と書くという規約を置いた。本稿は、その規約が置かれたあとの 99 編（901〜999）で、射程注記を引く文をもう一度数える。新しい定理も法則も主張しない。 第一に、規約は守られた——射程注記で既刊を引く文 320 本のうち、名指しの語を持つ 80 本はすべて「射程注記」の語を持ち、この語を持たない 240 本に名指しの語は 0 本だった（801〜899 では 161 本のうち 80 本）（第2節）。 第二に、射程注記を引く文は、座る文になった——候補文 80 本のうち 79 本（**0.987500**）が座り、座らなかった引用も射程注記に触れない引用も 0 本だった（801〜899 では 114 本のうち 10 本、**0.087719**）。結果を引く 240 本のうち 143 本（**0.595833**）は「〜を示した——ここでは」の形である（第2節）。 第三に、これが本稿の芯である。座る席は近くなった——944〜999 の座った文 60 本は、席を空けた編までの番号の距離の中央が 31.0 で、54 本（**0.900000**）が 100 以内、39 本（**0.650000**）は席を空けた編も座った編で、鎖は 4 段まで伸びた（801〜899 では中央 466.5、100 以内 0 本）（第3節）。 第四に、「先客なし」が見落とした先客は一編だった——座った文 79 本のうち 71 本（**0.898734**）が「先客なし」と書き、中身の単位で外れたのは、915 が 404 の扁平の席に書いた 1 本で、そこには 787 が座っていた（915 は未公開だったので、この点呼のあとで直した）。800 以後の番号の席に書いた 63 本に外れは無い（第4節）。 第五に、見落とされた先客は名指しの語を持たなかった——787 が 404 を引く文は「射程注記」の語を持つが名指しの語を持たず、915 は同じ射程注記で 787 を結果として引いていた。900 より前に座った先客 3 編のうち、名指しの語を持つのは 672 だけである（第4節）。 第六に、分離子は、先客が座ったことを名指しの語で書いたか、射程注記を引くだけで書いたかである——以後は「先客なし」と書く前に、席を空けた編の番号と「射程注記」の語を持つ既刊の文を読み、名指しの語の有無で探さない（第5節）。 キーワード：点呼、射程注記、先客、既刊との関係、規約、体系の計量。

> 本稿の射程（射程注記）：新しい定理も法則も主張しない——数えているのは体系自身の記述であり、外の世界について何も主張しない。英語版を数えない——日本語版の .tex だけを見た。時点を固定する——801 から 999 までの射程注記を写し、その写しを数えた。編が増えたり書き直されたりすれば数は動く。文の切り方だけを変える——射程注記の取り方は前の二回の点呼と同じで、句点で文を切るとき、括弧とかぎ括弧の中の句点では切らない。判定を機械にさせない——候補文 80 本をすべて読み、前の二回と同じ四つに分けた。判定は射程注記の文を読んで決め、各編の本文全体は読んでいない。二度以上扱われた射程注記の中身は、先の編と後の編の射程注記を読んで決めた。機械がしたのは、候補を出すこと、名指しの型を分けること、読んだ表を数え直すこと、番号の距離と鎖を数えることだけである。先客の探し方の限りを明示する——先客は、前の二回の判定の表と本稿の表から探した。射程注記を引かずに同じ中身を扱った編は見つからない。距離で中身を裁かない——近い番号の射程注記を扱った編の中身が薄いかどうかは測っていない。公開済みの編を直さない——公開済みの編を改訂することは提案しない。以後の書き方の規約として述べる。未公開だった 915 だけは、この点呼のあとで直した。語を挙げることと名指すことを分ける——本稿が「座る」「隣に置く」「席」「先客なし」と書くのは数える対象の語を挙げているだけで、既刊の射程注記を引く名指しではない。既刊との関係：論文900 は、名指しの語の一つが射程注記の外へ広がり、判定を分けていたのが「射程注記」の一語だったことを示し、名指しの語を使う文を限る規約を置いた——ここでは、その規約が置かれたあとの編で同じ判定を数え直し、規約が守られたあとに何が変わり、何が一本だけ外れたかを数える。論文800 は、既刊の射程注記を引くときの書き方を一語で決め、先に同じ中身を扱った編を引く規約を置いた——ここでは、その先客の照合が中身の単位で合っていたかを数える。論文600 は判定語の意味が薄まったことを、論文700 は分離子の五本に一本が働いていないことを数えた——ここでは、守られた規約のもとで一本だけ残った外れと、その外れがどこから来たかを数える。加えたのは、候補文 80 本をすべて読んで分けたこと、引かれた射程注記の編までの番号の距離と鎖を三つの判定の表の上で数えたこと、二度以上扱われた 23 編の射程注記の中身を読み、「先客なし」を照らしたこと、先客の文が名指しの語を持つかを数えたこと、以後の規約を一つ置いたことである。

## 1. 記法と問い

設定：論文901 から 999 までの日本語版の射程注記（本文の quote 環境で「本稿の射程」と書く部分）を写して読む。射程注記を句点で切った文のうち、より前の論文番号を含む文を既刊を引く文、そのうち論文800 と同じ候補の語か名指しの型を含む文を候補文と呼ぶ。句点で切るとき、括弧とかぎ括弧の中の句点では切らない。

| 名指しの型 | 文の中の形 |
|---|---|
| 座 | 「その席に座る」「その席にも座る」 |
| 隣 | 「その隣に置く」「隣にも置く」 |
| 名指さない | 上のどちらも無い |

判定は論文800・900 と同じ四つである。

| 判定 | 意味 |
|---|---|
| 座った | 先の編の射程注記が脇に置いたものを、後の編が扱った |
| 座らなかった | 脇に置いたものを引いたが、扱っていない |
| 脇に置く言明ではない | 射程注記を引いたが、中身が「既知として置いた」「標準的である」など |
| 触れていない | 先の編の射程注記に触れず、結果だけを引いている |

距離と鎖：座った文の番号から、席を空けた編の番号を引いた差を距離と呼ぶ（席を空けた編が二つ以上あるときは大きいほうの番号）。席を空けた編が、論文800・900 の判定の表か本稿の表で自分も座った編であるとき、その席をさらにたどれる段数を鎖の段数と呼ぶ。同じ先の編の射程注記の同じ中身に、より小さい番号で座った編を先客と呼ぶ。

問い：論文900 の規約が置かれたあと、射程注記を引く文はどう変わり、「先客なし」は中身の単位で合っていたか。

## 2. 規約と判定

計算 2.1：99 編はすべて射程注記を持つ。既刊を引く文は 320 本（論文900 の切り方なら 330 本）、そのうち候補文は 80 本（72 編）だった。

| 901〜999 | 「射程注記」の語がある | 「射程注記」の語が無い |
|---|---|---|
| 名指しの語がある | 80 | 0 |
| 名指しの語が無い | 0 | 240 |

801〜899 を同じ切り方で数えると、既刊を引く文 191 本のうち「射程注記」の語が無い文は 161 本で、そのうち 80 本が名指しの語を持ち、79 本（0.490683）が「隣に置」を含んでいた。

### 観察 2.2

規約は守られた。名指しの語を持つ文と候補文はちょうど同じ 80 本で、名指しの型は座が 79 本、隣が 1 本（910 が 01 の射程注記を引く文）だった——「射程注記」の語が無い 240 本に、名指しの語を持つ文は 1 本も無い。

### 観察 2.3

数え方の穴を三つ塞いだ。論文900 の切り方は括弧の中の句点で文を切り、980 の文を二つに切る。論文900 の型「席に座」は、「席にも座」の 6 本（949・958・971・974・976・977 の二つ目の文）を取らない。かぎ括弧の中の句点で切ると、466 の射程注記をかぎ括弧で引いてから名指す 672 の文で、名指しの語が 466 を引く文から外れる——本稿の切り方と型は三つとも取り違えない（自己検査）。

計算 2.4：三つの判定の表を並べた。論文800・900 の表は、その検算の実物から読んだ。

| 範囲 | 候補文 | 座った | 座らなかった | 脇に置く言明ではない | 触れていない |
|---|---|---|---|---|---|
| 213〜799（論文800 の表） | 156 | 82 | 17 | 2 | 55 |
| 801〜899（論文900 の表） | 114 | 10 | 15 | 10 | 79 |
| 901〜999（本稿） | 80 | 79 | 0 | 1 | 0 |

### 観察 2.5

射程注記を引く文は、座る文になった。候補文のうち座った割合は、213〜799 で **0.525641**、801〜899 で **0.087719**、901〜999 で **0.987500** である——脇に置く言明ではない 1 本は 910 で、01 の射程注記が「特異等温球の名で知られている」と既知として置いたものを引いている。「席には座らない」は 991 の 1 か所だけで、同じ文で 954 の見落としの席に座っている。

計算 2.6：座った文を持つ編は、801〜899 で 99 編のうち 9 編（0.090909）、901〜913 で 13 編のうち 0 編、914〜943 で 30 編のうち 18 編（0.600000）、944〜999 で 56 編のうち 53 編（**0.946429**）だった。944〜999 で座った文を持たないのは 944・945・946 である。

観察 2.7

結果を引く文の定型が入れ替わった。「射程注記」の語が無い既刊を引く文のうち、801〜899 では 161 本のうち 79 本（**0.490683**）が「隣に置」を含み、「〜を示した——ここでは」は 2 本（**0.012422**）だった。901〜999 では 240 本のうち「隣に置」が 0 本、「〜を示した——ここでは」が 143 本（**0.595833**）である——定型が一つ消え、別の定型が現れた。後の定型は名指しの語を持たない。

## 3. 座る席は近くなった

計算 3.1：座った文を、席を空けた編までの番号の距離で並べた。

| 範囲 | 座った文 | 距離の中央 | 最小 | 最大 | 100 以内 | 席を空けた編も座った編 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 213〜799 | 82 | 212.0 | 1 | 566 | 24（**0.292683**） | 4（0.048780） |
| 801〜899 | 10 | 466.5 | 167 | 527 | 0（0.000000） | 1（0.100000） |
| 901〜943 | 19 | 98.0 | 40 | 597 | 10（**0.526316**） | 0（0.000000） |
| 944〜999 | 60 | 31.0 | 2 | 591 | 54（**0.900000**） | 39（**0.650000**） |

観察 3.2

これが本稿の芯である。座る席は近くなった。944〜999 では、座った文 60 本のうち 54 本（0.900000）が 100 番以内の編の射程注記に座り、39 本（0.650000）はその編も座った編だった——801〜899 では 100 以内が 0 本、213〜799 でも 24 本（0.292683）である。

計算 3.3：944〜999 の座った文の鎖の段数は、1 段 18 本・2 段 25 本・3 段 14 本・4 段 3 本だった。4 段の鎖は 986←973←966←922←472、990←977←972←961←929、998←980←957←938←891 の三つで、論文800・900 の表の範囲（213〜899）で最も深い鎖は 2 段である。

観察 3.4

席を空ける見出しは増えていない。射程注記の見出しの「〜ない——」は、一編あたり 801〜899 で **4.383838**、901〜913 で **3.769231**、914〜943 で **3.266667**、944〜999 で **2.553571** だった——見出しの中に並べた項目の数は測っていない。

## 4.「先客なし」と先客

計算 4.1：901〜999 で座られた先の編は 64 編、そのうち二度以上座られた編は 23 編で、20 編は 901〜999 の中だけで二度以上座られ、358・404・466 の三編は 900 より前にも座られていた。席の中身は、先の編と後の編の射程注記を読んで決めた。

| 先の編 | 座った編（中身） |
|---|---|
| 358 | 757（回折限界）・949（収差） |
| 404 | 787（扁平）・915（扁平） |
| 466 | 672（聴覚（うなり））・942（インハーモニシティ） |
| 857 | 942（曲げの硬さ）・958（巻き弦） |
| 878 | 936（形が変わる仕組みの模型）・970（結合の速さ） |
| 879 | 982（二倍体）・983（世代の重なり） |
| 881 | 947（縄のたるみ）・996（足の着いている時間） |
| 890 | 968（軸の摩擦）・976（乱流の広い周波数の揺らぎ） |
| 891 | 938（林全体の標本の取り方）・963（誤差の相関） |
| 892 | 943（星の色と表面温度）・997（質量が失われること） |
| 926 | 951（反復深化と手の並べ方）・989（置換表） |
| 929 | 961（圧力角）・990（接触の応力） |
| 931 | 960（箱の数と費用）・971（二次反応） |
| 935 | 954（当て推量のある選択課題）・988（推定の効率と試行の数） |
| 936 | 955（ほかの協同の模型との比べ方）・970（結合と形の変化の速さ） |
| 938 | 957（層の境の引き方）・980（区画の中の抜き取り） |
| 939 | 995（質量を持つ破片）・999（投げ込んだ粒子） |
| 941 | 981（印が消える場合）・985（複数の人が歩く場合） |
| 942 | 958（巻き弦）・974（音程を広げる調律） |
| 954 | 988（推定の効率と試行の数）・991（見落とし） |
| 961 | 967（切り下げ）・972（中心からずらした従動節）・977（平らな面の従動節）・990（接触の応力） |
| 972 | 977（平らな面の従動節）・990（接触の応力） |

| | |
|---|---|
| 982 | 984（近交）・994（性比） |

> **観察 4.2**
>
> 同じ中身に二度座った組は一つだけだった。915 が 404 の扁平の席に座り、その前に 787 が同じ扁平の席に座っていた。ほかの 22 編では、後の編はどれも同じ射程注記の別の中身を扱っていた——787 は山頂の中心からの距離を、915 は緯度 1 度の長さと扁平率の読み取りを数えており、結果は重ならない。915 は未公開だったので、この点呼のあとで 787 を先客として引く形に直した。本稿の数は、直す前の写しで数えた。

計算 4.3：座った文 79 本のうち 71 本（0.898734）が「先客なし」と書き、書かない 8 本はどれも「〜の射程注記も」で始まる二つ目の文だった。中身の単位で外れたのは 915 の 1 本である。800 より前の番号の席（10 編）に「先客なし」と書いた 8 本で外れは 1 本、800 以後の番号の席に書いた 63 本で外れは 0 本だった。

> **観察 4.4**
>
> 見落とされた先客は名指しの語を持たなかった。900 より前に座った先客 3 編（757・787・672）が先の編を引く文は、三つとも「射程注記」の語を持ち、名指しの語を持つのは 672 だけだった——915 は同じ射程注記で 787 を「787 は…を示した——ここでは…」の形で結果として引いており、その文は名指しの語も「射程注記」の語も持たない。

> **観察 4.5**
>
> 別の中身に先に座った編を引く書き方は、番号の途中で現れた。先に座った編がいた組は 28 組で、射程注記のどこかでその番号を挙げた組が 24、挙げない組が 4（942 と 672・949 と 757・970 と 955・997 と 943）だった。座った文の中で「…の席には論文N が座った」と先客として挙げた組は 11（10 本）で、最初は 970 である——970 より前の 5 組では 0、970 以後の 23 組では 11（0.478261）で、この書き方はまだ揃っていない。

## 5. 分離子と以後の規約

> **観察 5.1**
>
> 分離子は、先客が座ったことを名指しの語で書いたか、射程注記を引くだけで書いたかである。901〜999 で座った文は 79 本すべてが名指しの型を持ち、そこで先に座った編を相手にした「先客なし」は外れなかった——名指しの語が置かれる前の番号で座った先客は、先の編を引く文に「射程注記」の語だけを持つことがあり、787 がそれだった。

> **観察 5.2**
>
> 以後の規約。「先客なし」と書く前に、席を空けた編の番号と「射程注記」の語を持つ既刊の文を読み、名指しの語の有無で探さない。先客が見つかれば、結果として引くだけでなく先客として引く——公開済みの編は直さない。これは以後の書き方についての規約である。本稿の射程注記も、論文600・700・800・900 の結果を引く文に名指しの語を使っていない。

> **観察 5.3**
>
> 言わないこと。英語版は数えておらず、本文の観察や結びで既刊を引く文も数えていない。判定は射程注記の文を読んで決め、各編の本文全体は読んでいない——先客は三つの判定の表から探しただけで、射程注記を引かずに同じ中身を扱った編は見つからず、その数は測っていない。近い番号の射程注記を扱った編の中身の厚さも、「先客なし」をどういう手順で確かめて書いたかも測っていない。

## 6. 点呼と結び

1. 既刊を引く文 320 本、候補文 80 本（計算 2.1）：全部読んだ。
2. 名指しの語を持つ 80 本がすべて「射程注記」の語を持つ（観察 2.2）：規約は守られた。
3. 座った 79 本（**0.987500**）（計算 2.4）：801〜899 は **0.087719**。
4. 「〜を示した——ここでは」143 本（**0.595833**）（観察 2.7）：定型の入れ替わり。
5. 944〜999 で 100 以内が 54 本（**0.900000**）（観察 3.2）：本稿の芯。
6. 席を空けた編も座った編 39 本（**0.650000**）、鎖 4 段（計算 3.3）：213〜899 は 2 段。
7. 「先客なし」71 本（**0.898734**）、外れ 1 本（計算 4.3）：915 の扁平の席、先に 787。

8. **800** 以後の番号の席の **63** 本に外れ **0**（計算 4.3）：外れは **800** より前の番号の席の **1** 本。
9. 先客 **3** 編のうち名指しの語を持つのは **672** だけ（観察 4.4）：**787** は持たない。
10. 名指しの語で書いたか、射程注記を引くだけで書いたか（観察 5.1）：分離子・論文**600**・**700**・**800**・**900**。

結び：座る席は近くなり、「先客なし」が見落とした一編は名指す前に座っていた。論文**901** から **999** までの射程注記で、名指しの語を持つ **80** 本はすべて「射程注記」の語を持ち、候補文 **80** 本のうち **79** 本が座っていた——論文**900** が置いた規約は守られ、射程注記を引く文は座る文になった。**944** から **999** の座った文 **60** 本は、距離の中央が **31.0** で、**54** 本が **100** 番以内の編の射程注記に座り、**39** 本はその編も座った編だった——席は近くの編が空けた席になり、鎖は **4** 段まで伸びた。「先客なし」**71** 本のうち外れは **915** の **1** 本で、扁平の席には **800** より前の番号の **787** が、名指しの語を持たずに座っていた（**915** はこの点呼のあとで直した）——**800** 以後の番号の席に書いた **63** 本は外れなかった。分離子は、先客が座ったことを名指しの語で書いたか、射程注記を引くだけで書いたかである。以後の規約——「先客なし」と書く前に、席を空けた編の番号と「射程注記」の語を持つ既刊の文を読み、名指しの語の有無で探さない。公開済みの編は直さない。既刊との位置——論文**600** は判定語の意味が薄まったことを、論文**700** は装置が情報を足していないことを、論文**800** は作法の名前が消えたことを、論文**900** は置いた名前が規約の外へ広がったことを数えた。ここでは、名前が規約の中に収まったあと、名前が置かれる前に座った先客を一本見落としたことを数えた。正直に言えば——英語版も本文の観察での引用も数えておらず、判定は射程注記の文を読んで決めた。外れは一本しか無いので、外れがどこに集まるかは一本から言える以上には言えない。数えた **99** 編とこの点呼は同じ書き方の流れの中にあり、ここで測った書き方から本稿が免れている保証は無い。

## 参考文献


1. 山岸勇輝 (2026).『第六百回の点呼 ── 三百本目の警告は当たったが、恐れていた形では来なかった』[論文600]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22805283
2. 山岸勇輝 (2026).『第七百回の点呼 ── 最も繰り返した装置が、五本に一本は働いていない』[論文700]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22805350
3. 山岸勇輝 (2026).『第八百回の点呼 ── 空いた席を引く文が座ったかは、「座る」と書いたときだけ読まずに分かる』[論文800]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22805383
4. 山岸勇輝 (2026).『第九百回の点呼 ── 席の有無を告げていたのは「隣に置く」ではなく「射程注記」の一語だった』[論文900]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22805412


*— From thinking to syncing. —*


**山岸 勇輝 (Yuuki YAMAGISHI)**



© 2026 Yamagishi Complexity Torus Lab, Japan · Licensed under Creative Commons Attribution 4.0 International (CC BY 4.0)